

会員発表紹介

認知機能評価MMSEを用いた内服薬服用評価

- 三浦 昌朋¹、三浦 岳史²、森井 宰²、佐々木 博²、石川 素子²、
佐藤 雄大²、藤田 浩樹²、成田 琢磨²、鈴木 敏夫¹、加計 正文²

1 秋田大学医学部附属病院 薬剤部

2 秋田大学医学部内科学講座 内分泌・代謝・老年医学分野

【目的】薬物療法中の患者にとってコンプライアンスが病気の進行・悪化・再発防止に重要な意義をなしている。しかしときに服用方法が複雑となり、認知度の低い高齢者にとってはコンプライアンス低下へと繋がる。そこで認知機能検査 MMSE を用いて服用状況と内服の理解度調査を行ったので経過報告する。

【方法】2006年1月から5月まで当院内科病棟に入院した60歳以上の患者(71.9±8.6歳)28名を対象とした。自己管理内服とし、一週間定期処方における服用状況の確認と服薬指導時の反応、質疑応答からデータを収集した。

【結果】内服薬の飲み忘れは全体の21%、MMSE23.0±0.7であり、完全服用者27.0±1.4間で有意差が観察された($P<0.0001$)。また自分の内服薬に関心のない患者は全体の39%、MMSE24.2±3.2であり、理解患者27.1±1.0間で有意差が観察された($P=0.0018$)。

【考察】少ないサンプルサイズでの結果であるが、MMSEが服用状況を見極める一手段となり、結果から服用方法を工夫することでコンプライアンス向上に努まると考えられる。

第49回日本老年医学会(平成19年6月20~22日)

薬剤管理指導業務における問題点、保険査定、 監査指摘事項のアンケート結果と考察

薬剤管理指導業務・プレアボイド委員会
北秋中央病院薬剤科 鈴木幸造

【目的】現在、秋田県内の薬剤管理指導料承認施設は39施設ある。薬剤管理指導業務・プレアボイド委員会で各施設の現状を報告し合い問題点などについて協議して薬剤管理指導件数増加・業務の効率化につなげる。

【方法】平成19年9月27日委員会を開催するにあたり、事前に各施設に薬剤管理指導業務における問題点、保険査定、監査指摘事項についてアンケート調査を実施した。その結果について協議し考察した。

【結果・考察】委員会への出席は39施設のうち18施設あった。アンケート調査への回答は11施設より21件あった。日頃感じている疑問・問題点が16件寄せられ、うち最も多いのが「薬学的管理とは具体的にどのようなものか」が4件で、他に「退院時服薬指導加算について」「服薬指導記録の様式、記載方法、保管について」などが寄せられた。また、保険査定1件、監査指摘事項4件あった。寄せられた事項に対する委員会での協議内容、考察について発表する。

また、全国の平成17、18年度共同指導等における主な指摘事項のうち薬剤管理指導業務関係の部分を紹介する。また、平成12年4月、平成14年4月の薬剤管理指導料・留意事項の改定について説明する。その後改定がなかったが、次の平成20年4月診療報酬改定で薬剤管理指導料・留意事項も改定される予定である。薬剤管理指導料が医療安全の観点から区分されメリハリのついた評価になるようだ。来年度はそれに対する各病院の対応についても協議していく。

第20回秋田県臨床薬学研究会(平成19年11月9日)